

## 有価証券の端数利息

国債や社債などのことを、利付有価証券といいます。

利付有価証券には、「利札」が付いていて、利払日が到来した利札を切り離して銀行に持っていくと、利札に記載している利息を受け取ることができます。

利付有価証券のイメージ図

あいぱす株式会社		
社 債		
<u>¥1,000,000</u>		
利率 年2.0%		
償還期日 令和4年9月30日		
¥10,000 令和4年9月30日	¥10,000 令和4年3月31日	¥10,000 令和3年9月30日
¥10,000 令和3年3月31日	¥10,000 令和2年9月30日	¥10,000 令和2年3月31日

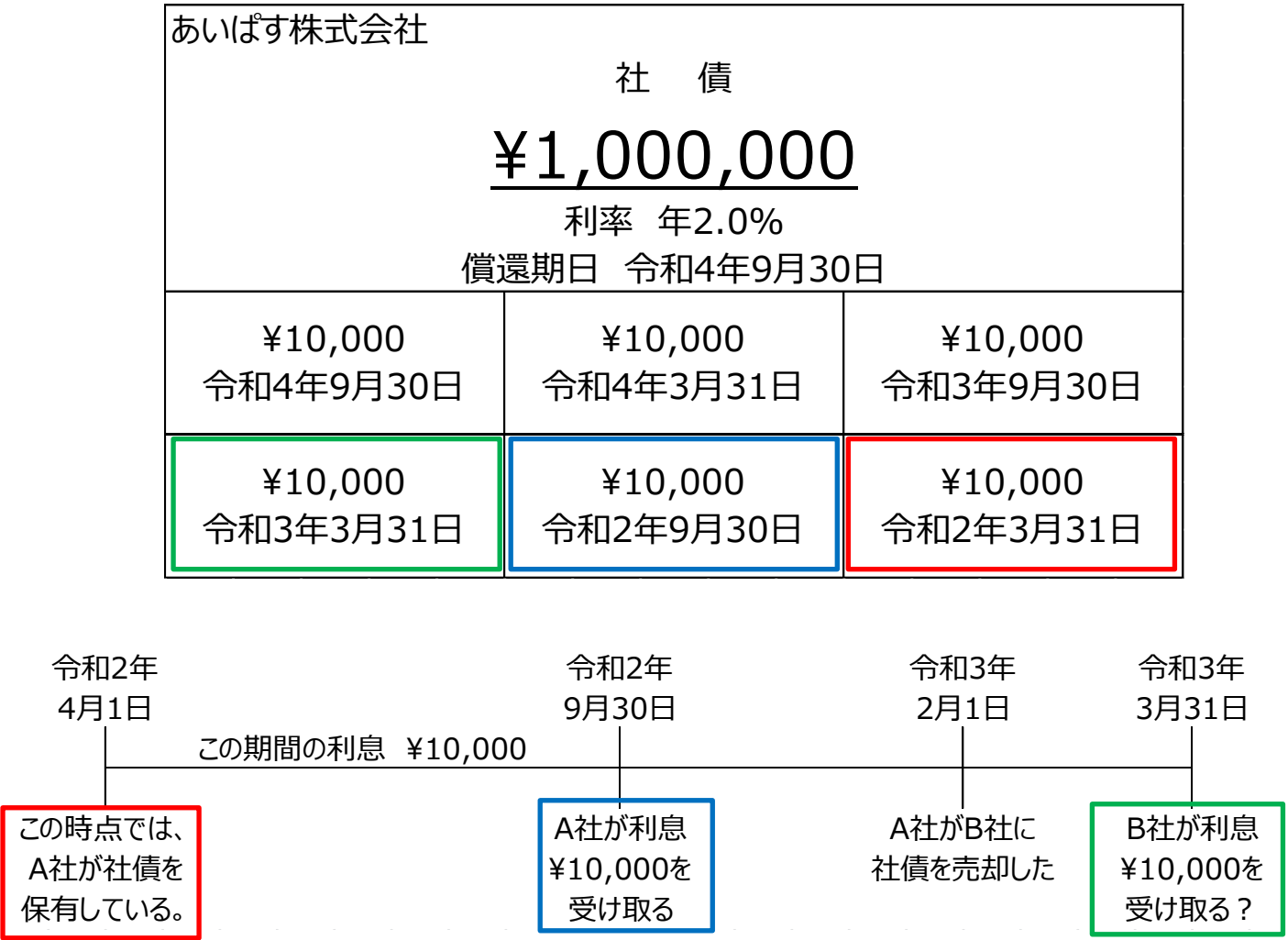
上図の場合、令和2年3月31日に、右下の利札（赤で囲った部分）を切り取って銀行に持っていけば、利息¥10,000を受け取ることができるわけですね。

しかし場合によっては、この利息¥10,000を受け取る権利を持つ人が、**社債を売った人**と、**社債を買った人**に分かれることがあります。

この場合、**社債を買った人**は、受け取った利息のうちいくらかを、**社債を売った人**に支払わなければなりません。

この、**社債を売った人**に支払う利息を、**端数利息**といいます。

次の図を見てください。



あいぱす株式会社が発行した社債を、A 社が保有していました。

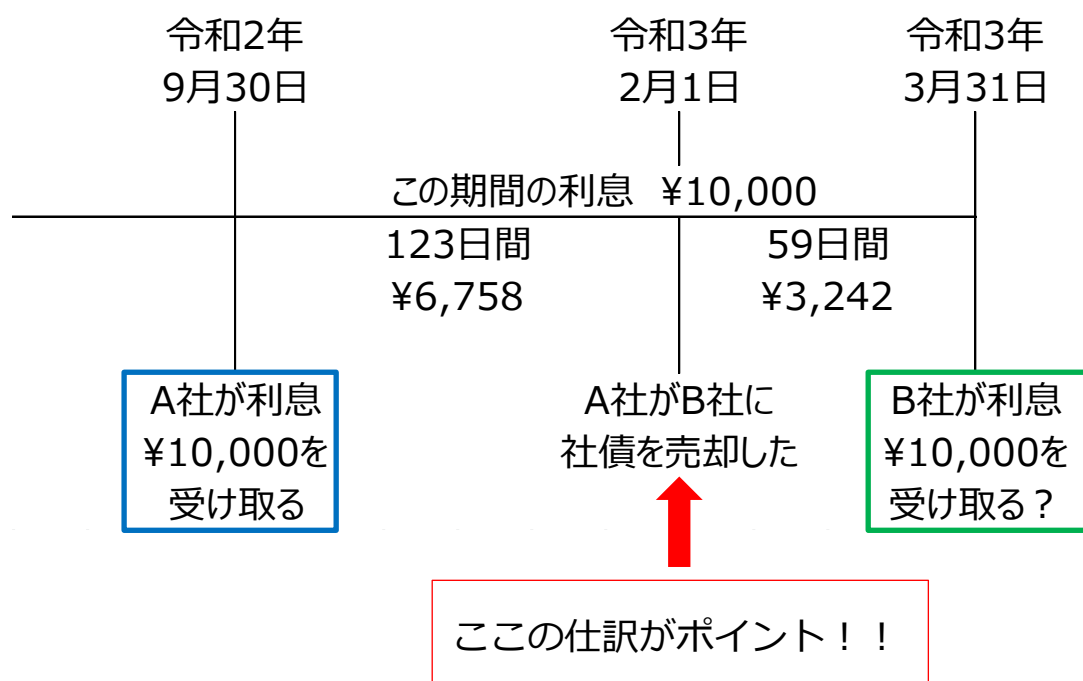
赤枠で示した、令和 2 年 3 月 31 日の利払は、A 社が銀行に持っていき、発行元のあいぱす株式会社から、利息¥10,000 を受け取っています。

そのまま次の利払日（令和 2 年 9 月 30 日）を迎え、再び A 社が¥10,000 を受け取りました。（青枠の部分）

次に、令和 3 年 2 月 1 日、A 社が、B 社に、この社債を売却しました。

迎えた 3 回目の利払日（令和 3 年 3 月 31 日）の時点で、社債は B 社が持っています。この日の利息¥10,000 は、そのまま B 社が受け取れるのでしょうか？

では、次の図を見て下さい。



結果からいえば、B社は令和3年3月31日に、社債発行元のあいぱす株式会社から、利息¥10,000を受け取ることができます。

しかし、令和2年9月30日から令和3年3月31日までの182日間のうち、123日間はA社が社債を保有していたのですから、この期間に相当する分については、A社が受け取る権利があります。

つまり、

$$10,000 \times (123 \div 182) = 6,758 \text{ 円は、A社が受け取る}$$

$$10,000 \times (59 \div 182) = 3,242 \text{ 円は、B社が受け取る}$$

となるわけです。

しかしながら、令和3年3月31日に銀行に持っていく利札は1枚しかありません。1枚の利札をA社、B社それぞれの分に切り離すことはできません。利息を支払うあいぱす株式会社は、あくまでも利札に対して¥10,000を支払うのです。

そこで、

- ① 予め、B社からA社に、¥6,758払っておく。
  - ② その後、B社は、あいぱす株式会社から¥10,000を受け取る。
- という処理をします。

- ・ A 社はこの社債を満期保有目的で所有していた。
- ・ 売却時の社債帳簿価額は、¥1,000,000 であった。
- ・ A 社は B 社に、¥100 あたり¥95 で売却した。

という条件があったとすると、具体的には、

#### A 社の仕訳（売り手）

2 月 1 日	現金	956,758	／	投資有価証券	1,000,000
	投資有価証券売却損	50,000	／	有価証券利息	6,758

#### B 社の仕訳（買い手）

2 月 1 日	投資有価証券	950,000	／	現金	956,758
	有価証券利息	6,758	／		

3 月 31 日	現金	10,000	／	有価証券利息	10,000
----------	----	--------	---	--------	--------

となります。

A 社は、B 社から端数利息として¥6,758 受け取り、  
 B 社は、あいぱす株式会社から、¥10,000 受け取っていますが、  
 先に A 社へ¥6,758 支払っていますので、結果的に¥3,242 受け取ったこととなります。

< 例題① >

次の取引の仕訳を示しなさい。

A社は、6月12日に社債¥1,000,000を満期保有目的で、¥100につき¥97で購入し、代金は端数利息とともに現金で支払った。

なお、この社債の利率は年2%、利払日は3月末と9月末の年2回である。

< 解答と解説 >

まず、時系列をしっかりと抑え、端数利息の計算をしましょう。



図より、73日分の端数利息が発生していることが分かります。

$$\text{年利} = 1,000,000 \times 2\% = 20,000$$

$$\begin{aligned}\text{端数利息} &= \text{年利の73日分} \\ &= 20,000 \times (73/365) = 4,000\end{aligned}$$

「満期保有目的の社債」は、『投資有価証券』勘定で処理します。  
¥1,000,000を、¥100につき¥97で購入したということは、

$$\text{購入代金} = 1,000,000 \times (97/100) = 970,000$$

$$\begin{aligned}\text{支払った代金} &= \text{購入代金} + \text{端数利息} \\ &= 970,000 + 4,000 = 974,000\end{aligned}$$

以上より、解答は、

投資有価証券	970,000	/	現金	974,000
有価証券利息	4,000	/		

となります。

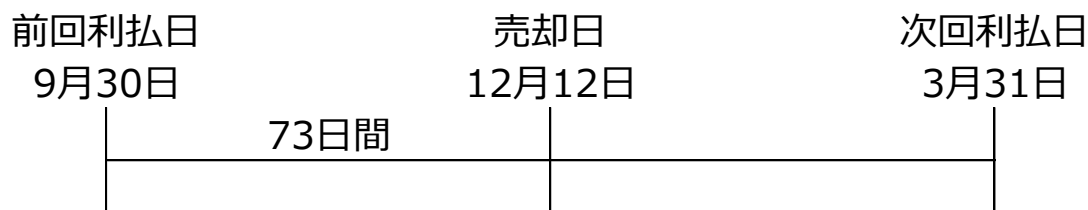
< 例題② >

次の取引の仕訳を示しなさい。

A 社は、例題①で購入した社債を、12 月 12 日に¥1,000,000 で売却し、代金は端数利息とともに現金で受け取った。

< 解答と解説 >

まず、時系列をしっかりと抑え、端数利息の計算をしましょう。



図より、73 日分の端数利息が発生していることが分かります。

条件は例題①と同じなので、端数利息は¥4,000。

また、¥970,000 で購入したものを¥1,000,000 で売却しているので、¥30,000 の『投資有価証券売却益』（収益）が発生しています。

受け取った金額 = 売却代金 + 端数利息  
= 1,000,000 + 4,000 = 1,004,000

以上より、解答は、

現金	1,004,000	/	投資有価証券	970,000
		/	有価証券利息	4,000
		/	投資有価証券売却益	30,000

となります。

最後に注意事項です。

1. 端数利息は、常に『有価証券利息』勘定で処理します。
2. 『端数利息』という勘定科目はありません！！
3. 『投資有価証券利息』という勘定科目もありません！！  
『投資有価証券』の端数利息も、『有価証券利息』勘定で処理します。
4. 売却益、売却損については、  
『有価証券売却益』『有価証券売却損』  
『投資有価証券売却益』『投資有価証券売却損』  
を使い分けます。